

礼にはじまり、礼におわる

令和8年度前期終業式は大きな節目です。この節目に前期をしっかり振り返ることが必要です。学校行事では、春実施となった体育祭、3年生の修学旅行が行われました。また、学校総合体育大会や新人戦、各種コンクールなど、部活動やクラブなどでの活躍は目を見張るものがありました。そして何よりも、授業をはじめとした日々の学校生活…とても充実していたように思います。富士見中学校創立以来80年間もの間、受け継がれてきた「文武両道」の精神で、皆さんは多くのことに挑戦し、多くのことを学んできました。各学級、各部活、一人一人が前期中の成果と課題を整理し、後期につないでいくことが大切です。

夏休み明けの集会では「『勝ち』より『価値』」というお話をしました。勝つことや結果ばかりに目を向けるのではなく、活動を通して学んだ「努力を継続すること」「仲間と力を合わせること」などを「価値あること」と考えてください、という内容でした。ここでは「価値あること」の1つである「礼儀を身に付けること」についてお話をします。

前期が始まって間もないころ、前年度の剣道の大会で活躍し、雑誌に掲載された2年生の女子剣道部員2名からお話を聞く機会がありました。2名に共通していたのは、剣道の魅力を「礼儀」を学ぶことであると考えている点でした。併せて、「礼にはじまり、礼におわる」ことを大切にしているとも教えてくれました。「礼にはじまり、礼におわる」は「最初と最後におじぎをする」という形式的なものではなく、剣道そのものが、すべて礼節の上に成り立つという意味なのだろうと考えることができます。剣道では、稽古のはじめとおわりに、「正面に礼」「先生に礼」「互いに礼」を行います。「正面に礼」は、神棚があれば神棚に、なければ道場の正面に礼をするものです。この礼には、稽古ができる環境に対する感謝の気持ちが込められています。自分を支えてくれている周りの人達への感謝の気持ちもあるのだと思います。「先生に礼」「互いに礼」も含め、相手を尊重していること、敬意と感謝の思いをもっていることを表現する作法なのです。

これは、剣道に限ることではありません。保健体育の時間には柔道を学習しますが、柔道や空手などの武道に共通する部分もあるようです。スポーツであれば、試合前には「礼」をしますよね。授業のはじまりとおわりの「礼」もあります。この授業のはじまりとおわりの「礼」については、1年生が学年全体で取り組んでいました。素晴らしい取り組みです。

部活動やクラブ活動、授業などの様々な場面で「礼」がしっかりとできるということは、周りの人や環境に対する敬意と感謝の思いをもっていることなのだと思います。さらにいえば、そのような思いや心構えがなければ、学力や体力、技術は、十分には伸びていけないようにも考えています。「礼にはじまり、礼におわる」大切にしたいですね。

明日からは3日間の秋休みです。気持ちを新たに後期のスタートを迎えましょう。令和8年度前期終業式の式辞は以上です。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣